

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	2-1-3	事業名	市民まちづくり活動促進総合事業				
担当	市民まちづくり局地域振興部市民自治推進室市民活動促進担当 高田 Tel 211-2964						
全体計画							
事業内容	<p>営利を目的とせず自発的に公益的な活動を行う市民活動団体は、市民が地域の課題などの解決に向けて自ら行動する「市民自治が息づくまちづくり」を目標としている本市において、まちづくりの重要な一翼を担うものである。この活動をより活発なものとするため、市民活動団体への総合的な支援を行うことを目的とする市民まちづくり活動促進条例の制定及び本条例に基づく新たな支援策の総合的な展開を行う。</p> <p>市民フォーラムの開催及びアンケート実施(19年度のみ) 市民まちづくり活動促進条例(以下「条例」という。)の制定(19年度のみ) 市民まちづくり活動促進基本計画(以下「基本計画」という。)の策定 市民まちづくり活動促進テーブル(以下「促進テーブル」という。)の設置・運営 市民まちづくり活動促進基金(以下「基金」という。)及び基金助成制度の設置・運営 市民まちづくり活動フェスティバル(以下「まちづくりフェスタ」という。)の開催 条例のPR及び普及啓発 企業と市民まちづくり活動団体のマッチング事業 市民まちづくり活動人材育成支援事業 市民まちづくり活動の場の支援事業</p>			<年度別の事業内容>			
				<p>平成19年度の実施。～は準備。 平成20年度：促進テーブル計画部会で基本計画案の策定。パブリックコメントを経て年度内に基本計画を策定。本部委員会、審査部会、計画部会の設置、運営。寄付の受付を開始。団体指定、分野指定、テーマ指定など寄付者の意向を尊重した助成を行う。また、基金PRを目的としたパンフレットの配架及びポスターの地下鉄駅掲示板等への掲出。10月5日、札幌青年会議所、青少年女性活動協会との共催により、「札幌ファクトリー」にて開催。条例パンフレットの作成、配架。企業、まちづくり活動団体への訪問、ニーズの把握、マッチングの実施。の中で合わせて実施。 平成21、22年度の実行。</p>			
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容(予算)			
	<p>市民まちづくり活動への市民理解を深めるため、平成19年7月24日、講師に弁護士で(財)さわやか福祉財団理事長の堀田力氏等を招いて、札幌エルプラザ3階ホールにてフォーラムを開催し、来場者アンケートを実施。293名の参加があり、来場者アンケートについても197名からの回答があった(回答率67.2%)。さらに市民活動団体向けアンケートとして、市民活動サポートセンターに登録している団体及び市内に拠点を持つ特定非営利活動法人1,786団体へ郵送でアンケート用紙を送付、643件の回答があった(回答率36.0%)。この両方のアンケートで多く意見があった「市民活動団体間の連携の促進が重要」という内容は条例に反映されることとなった。条例は議会に再提案の後、可決され、制定に至った。</p> <p>さらに、基金PRのためのパンフレット、ポスターの作成を行ったほか、条例に基づく施策・事業について意見を述べる市民活動促進専門アドバイザー会議において、これらの事業を円滑に進めるための検討を行った。</p>			<p>基本計画の策定。 促進テーブル本部委員会、計画部会、審査部会の運営。 基金PR(パンフレット、ポスターの制作及び配架)、寄付の募集、基金説明会の実施、基金登録団体の募集、基金助成団体の募集及び助成等実施。 札幌青年会議所、市民活動サポートセンターとの共催による、まちづくりフェスタの開催。 条例パンフレットの作成、配架。 企業と市民まちづくり活動団体のマッチングを実施する。 教育委員会生涯学習部との連携によりモデル事業の実施。 ニーズを踏まえて具体的な事例を構築する。</p>			
達成目標の状況							
項目		18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (予定)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)
市民まちづくり活動促進条例制定		検討	制定	施行	/	/	制定 (19年度)
市民まちづくり活動促進基金設置		検討	検討	設置	/	/	設置 (20年度)
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加 平成19年度に行ったフォーラムでは、定員320名のところ293名もの参加があった。フォーラム来場者アンケート及び市民活動団体へのアンケートはどちらも6割を超える回答率であり、これらアンケートで多く意見があった「市民活動団体間の連携の促進が重要」という内容は条例に反映されることとなった。平成20年度、基金の団体登録及び助成に関する説明会を2回実施したところ、どちらも50名の定員を超える参加があった。また、基金への登録団体は5月中旬までで約30団体である。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力]企業からの基金への寄付は5月下旬までで2,500万円弱となっている。 [人材協力] [情報協力] [その他の協力] 市民・企業等が参加しやすい環境づくり 現在までのところ、基金のパンフレット及びポスターによるPR、基金説明会の開催により市民参加を図っている(条例パンフレットはこれから配架)。企業に対しては、直接訪問し企業の社会的責任を果たす方法として当基金を活用できることを説明し、参加を呼びかけている。また、企業向けリーフレットをこれから各企業宛に送付予定。</p>							

## 平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	2-1-3	事業名	市民まちづくり活動促進総合事業			
評価(成果)		課題				
<p>平成19年度</p> <p>市民フォーラムは、定員320名のところ293名の参加があり、条例の趣旨を周知することができた。フォーラム来場者アンケート及び市民活動団体へのアンケートはどちらも6割を超える回答があり、条例の制定及び今後の事業展開への貴重な参考意見をいただいた。また、その中でも意見が多かった「団体間の連携の重要性」について、条例に盛り込むことができた。</p> <p>市民まちづくり活動促進条例の制定。</p> <p>平成20年度</p> <p>基金のパンフレット及びポスターによるPR、基金説明会の実施により、5月19日時点で基金の登録団体は28団体。説明会へ参加していただいた団体数は100余りであったため、今後まだまだ登録団体は増えることが見込まれる。</p> <p>基金への寄付については、特定の団体指定が主であるが、5月下旬にて2,500万円弱と目標の3,000万円に迫る勢いである。</p> <p>まちづくりフェスタについては、札幌青年会議所と青少年女性活動協会との実行委員会を2回開催し、フェスティバルの方向性、内容について検討している。</p>		<p>市民まちづくり活動促進条例における、市民まちづくり活動団体への4つの支援をいかに効果的、効率的に行うかが今後の課題である。</p> <p>特に20年4月より設置した基金については、目標額の3,000万円に向けて、大口の寄付が期待できる企業への基金説明等、積極的なPRを図る必要がある。</p> <p>また、まちづくりフェスタについては、普段市民活動に馴染みのない多くの市民の往来があると考えられる商業施設「札幌ファクトリー」での開催を予定しているが、実際に市民活動に参加しようという気持ちになるには、その内容が重要となるため、通りかかった市民が興味を持ってくれるような催しを検討する必要がある。</p>				
今後の事業の予定・方向						
<p>市民まちづくり活動促進テーブル計画部会において検討を重ね、パブリックコメントを経て、20年度中に策定する。</p> <p>20年度、本部委員会は4回、計画部会は5回、審査部会は寄付の状況にもよるが10回程度の開催を予定している。21年度以降は、計画部会が事業検討部会へ移行する。回数については、基本的に20年度と同様であるが、状況に応じて調整を行う。</p> <p>20年度、分野・テーマに関する助成は8～9月頃実施予定。21年度以降より、春頃に助成を行う予定である。団体指定の助成は、寄付があり次第、適宜行っていく。</p> <p>20年度は、札幌青年会議所、青少年女性活動協会との共催で、10月5日に札幌ファクトリーでの開催を予定している。21年度以降については、20年度の結果を参考に事業を修正し行っていく。</p> <p>5月末より条例パンフレットをまちづくりセンターなどの公共施設へ配架を行い、今後基金とともに積極的にPRを行う。</p> <p>20年度は企業と市民まちづくり活動団体の個別のマッチングを実施する。その結果をもとに21年度以降、マッチングの自立的な仕組みを構築する。</p> <p>20年度は教育委員会生涯学習部が行う「さっぽろ市民カレッジ」との連携によりモデル事業を実施。その結果をもとに21年度以降の事業を検討する。</p> <p>20年度は、マッチングの中で具体的な方策を探る。その結果に基づいて21年度以降の事業を実施する。</p>						
事業費の推移						
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計
計画	事業費	1,500	17,000	11,000	10,500	40,000
	財源					
	国・道支出金	0	0	0	0	0
	市内 その他	0	0	0	0	0
予算	事業費	1,500	44,000	-	-	45,500
	財源					
	国・道支出金	0	0			0
	市内 その他	0	30,000			30,000
実績	事業費	1,434	-	-	-	1,434
	財源					
	国・道支出金	0				0
	市内 その他	0				0
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				113.6%
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)						
<p>(全体)平成19年度に計画していた次の事業は、重要度の高い他の事業を優先するため一旦休止とする。「活動の場の支援事業」～空き店舗での共同事務所スペース設置、公共施設での印刷機、紙折り機等及び打合せスペースを設置する取組「市民活動ファンクラブの設置」 「地域と市民活動団体のマッチング事業」</p> <p>[19年度]</p> <p>[20年度]「市民活動総合情報ポータルサイト開設・運営」に関しては、地域の縁結び事業において実施。「人材育成支援事業」については、教育委員会生涯学習部との連携によりモデル事業を実施。予算については、基金への寄付金の目標額30,000千円をその他財源に計上。</p>						